当院の不妊治療の検査

① 基礎体温測定

基礎体温測定は不妊検査の中で最も基本的で大切なものと言えます。基礎体温を測定すると主に「排卵時期」「黄体機能の診断」「排卵しているかどうか」「妊娠の診断」などが分かります。

② 超音波検査

不妊治療における超音波の役割は非常に大きいものがあります。超音波検査なしには治療が成り立ちません。初診時は、子宮、卵巣、卵管、ダグラス窩を調べます。

③ 子宮卵管通水検査

卵管通水検査は、卵管の詰まりの有無を調べる検査です。 腟から子宮腔にカテーテルを通し、生理食塩水を注入し、左右の卵管、さらには腹腔へと流れ出ていくかどうかを調べます。

④ フーナー検査

排卵時期に性交渉を行いその 12 時間以内に来院してもらいおりものの中の精子の数と動きを見る検査です。この検査から精子の濃度や運動率が大体予測できます。

⑤ 精液検査

現在不妊症の原因の約 4 割は男性が関係しています。精液検査を行うと異常があるかどうかすぐにわかります。

⑥ 内分泌検査（ホルモン検査）

妊娠に重要な役割を果たす、FSH（卵胞刺激ホルモン）、LH（黄体化ホルモン）、PRL（プロラクチン、乳汁分泌ホルモン）、E2（エストラジオール）の数値を測ります。採血による血液検査を行います。

⑦ クラミジア検査・その他感染症検査

女性側の不妊の原因の 3 割は卵管因子です。そのうちの 60～70%はクラミジア感染症が原因となっています。

※その他特殊検査として以下の検査があります。

⑧ 子宮鏡検査

不妊症の原因の一つとして、子宮因子があります。子宮因子とは、子宮内腔に何らかの妊娠しない異常がある事をいいます。子宮内腔の評価としてはエコーや卵管造影よりも直接観察できるため子宮鏡のほうが優れています。

⑨ 抗精子抗体

抗精子抗体とは簡単に言うと精子に対する抗体ができてしまう事です。あまり多くは見られませんが、約 3%の女性に抗精子抗体が認められています。

⑩ フローラ検査

子宮内にも腸と同じように常在菌が存在します。子宮内細菌にも様々な種類があり、善玉菌が減るなど、子宮内の状態が乱れてしまうと、着床、妊娠しない、また妊娠しても流産や早産の原因となる可能性があるため、子宮内最近の状態を確認します。

⑪慢性子宮内膜炎検査

子宮内膜組織を採取し、細菌感染などにより子宮内膜で変化した形質細胞を免疫染色します。それを顕微鏡で観察して子宮内膜炎がないか、確認します。

⑫ 染色体検査

不妊症の検査として「染色体検査」を行う事はそう多くありません。検査を行う際にはあらかじめカウンセリングを受けていただきます。

⑬ ソノヒステログラフィー

子宮内腔にバルーンを入れ、チューブ先端から生理食塩水を入れて子宮内部を膨らませて、同時に経膣超音波検査を行う検査の事です。子宮内腔へ突出した粘膜下筋腫や子宮内膜ポリープが浮き出てきて、筋腫やポリープの状態を知ることができます。

⑭子宮鏡手術

検査によって見つかった、子宮内膜ポリープ、子宮筋腫、内膜炎手術等についても当院で施術可能です。不妊の原因となっている病気を根本的に治療してから不妊治療をすることが重要です。

芥川バースクリニック

AKUTAGAWA birth clinic